

2020年度 認定こども園進徳幼稚園自己評価結果報告書

1. 本園の教育目標

人間性を豊かに育て、幼児期に必要な様々な経験を通して、心身ともに健全でたくましい子どもが育つよう3つの教育目標を掲げている。

1. げんきであかるい子
2. こころのやさしい子
3. よく考え、工夫し、表現する子

2. 重点的に取り組んだ目標・評価

自己評価書を活用し、各職員の取り組みの成果を評価者と面談する機会を設けた。資料を付けてまとめるなど、成果を形として残す力が向上した。

また、本年度は新型コロナウイルス感染症対策が年度当初から喫緊の課題となった。保健衛生担当者を中心に試行錯誤しながら、マニュアルや点検表を作成した。感染症対策に伴い、誰にもわかりやすく伝える表示の工夫や行事の見直しなど、一年を通して取り組み続けたことは評価に値すると考える。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価 A…達成できた B…概ね達成できた C…概ね達成できたが課題が残る D…努力が必要

評価項目	取り組み状況	評価
新教育・保育要領の内容理解を深め、昨年度の課題解決を目指した子ども主体の保育計画の立案をすすめる。その上で実践、評価、改善の過程を記録に残し、自己の振り返りと園全体の保育向上に活用していく。	子ども主体の保育計画を立て実践し、自己の振り返りを行うとともに、学年で共有する時間を取ることができたのは大きな成果と感じる。その中で一部の学年ではチェックシートを作成する試みもあるが、全学年を通して保育計画の立案、実践、評価、改善の記録の残し方を検討していく必要がある。	B
新教育・保育要領に基づく、「子ども主体の保育を目指すこと」を目標とする本園の保育について、すべての保護者から理解が得られるよう、説明責任を果たし、わかりやすい形で発信する。	これまでの発信に加えて、連絡システム【れんらくアプリ】を活用し、カラー写真を盛り込みながら、分かりやすい発信を心がけた。しかしながら、保護者アンケートから、より多くの写真の提示を求められていることが分かった。来年度はリニューアルするホームページも活用して発信していきたい。	B
自己評価につながる各種自己チェックシートを作成し、チェック、自己分析、改善のサイクルを確立することで、職員自身の資質向上に繋げる。	保育教諭としての資質の向上を目指して自己評価書による振り返りを行い、記録の残し方に工夫がみられるようになってきた。今後はそこで得られた知識や創意工夫した点について、職員間で情報交換しながら、園全体の底上げを図っていきたいと考える。	A

4. 自己評価結果と分析

・評価方法

各職員が各自自己評価を行い、全体の集計を出す。

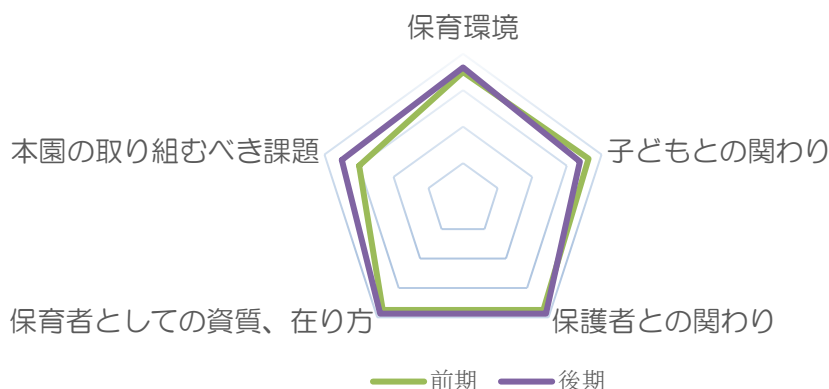
・分析

前期は「本園の取り組むべき課題」の項目の評価が低かった。これは、新型コロナウイルス感染症対策の

ための登園自粛期間が続き、実践の場が持てなかったことも一因と考えられる。一次評価基準日に主幹教諭らと面談の時間をもち、助言を受け、取り組むべき課題の方向性が見えてきたことで、その後の取り組み方やまとめ方が明確になった。その結果として各職員の評価が上がったと思われる。

後期になって評価が下がった『子どもとの関わり』については、「保育者自身が他のクラスや異年齢の子ども達と進んで関わりを持つことを大切にしている」の項目で「ふつう」もしくは「努力が必要」の回答が全体の44%だった。今後改善すべき課題といえる。

2020年度 保育の振り返り



5. 今後取り組むべき課題

子どもを主体とした保育計画の実践と効果的で継続可能な記録の残し方	引き続き、新教育・保育要領に基づいた子ども主体の保育計画を立案すると同時に、実践・評価・改善の過程を簡潔に計画（週日案）に残すなど、効果的で継続可能な記録の取り方を確立し、園全体の保育向上に活用していく。
保護者との連携	保護者とよりよい信頼関係を築いていくには、保育者が共感性をもって対応していくことが大切である。子どもを主体とした保育であることの伝え方の研修していく。
新型コロナウイルス対策に向けた新しい生活様式の確立のために職員の知識を深める	本年度作成したマニュアルや点検表を活用し、改善点を加筆・修正しながらより実効性のあるものにしていく。刻々と変わっていく情勢を敏感にとらえ、必要な知識を職員間で共有し、感染症対策を行っていく。

6. こども園評価評議員会による意見

- 自己観察に基づいた自己評価書の取り組みは素晴らしい。PDCAサイクルを活用し、自己の課題を明確にし、改善すべき具体的手立てを主幹保育教諭から指導助言してもらい、文書で記録していくことにより、若い保育教諭の資質向上に繋がっている。コロナ禍にありながら、非常勤の教諭も管理職と面談できたことは良かったと思う。
- 園の評価に関して職員による自己評価及び保護者による外部評価が適切に実施されている。次に、結果を公表することで、課題が明確になり、課題改善を次年度の重点目標に設定することで職員の意識改革に繋がっていることは評価できる。
- ここ数年電子メールによる情報過多の状況にある。情報を発信する側は情報を精選し必要最小限の情報を簡潔明瞭に発信する必要がある。また情報を受け取る側も情報を収集、選択、精選する等情報処理能力を身に付けていく必要がある。それぞれお互いの立場で努力していくことが大切。
- 保護者とのトラブル等が発生してしまったり、すぐに園長・副園長・主幹等に状況を話し、職員全員が情報を共有し、全園態勢で解決にあたるのが大切。担当者だけが一人で問題を抱え込んではいならない。

7. 財務状況

会計処理についても適切に処理されている旨の報告を公認会計士より受けている。